

横須賀市中小企業景況レポート

第 56 号（令和 8 年 10 月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町 11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市がさらに追加調査しました。

横須賀市中小企業景況レポートは、3 か月に 1 回発行しています。

【市ホームページからもご覧いただけます。】

横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：225 社（うち、かながわ信用金庫＋湘南信用金庫 調査 133 社）
- ③ 調査期間：前期・・・令和 8 年 4 月～6 月の景況感（調査時点 令和 8 年 3 月 1 日）
今期・・・令和 8 年 7 月～9 月の景況感（調査時点 令和 8 年 6 月 1 日）
次期・・・令和 8 年 10 月～12 月の景況感（調査時点 ” ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：D I 値算出による（次ページに D I 値の説明あり）

景況及び 4 項目の調査結果（全業種）

* D I 値調査結果は裏面に記載

* 【 】は今期の D I 値を記載

全業種の景況感は、前期【△13P】から【△17P】となりました。

今期の景況感は、建設業【△3P】が 26P 大幅に向上しましたが、製造業【△8P】は 21P 大幅に低下し、卸・小売業【△40P】、不動産業【23P】がそれぞれ 14P、10P やや低下しました。サービス業【△15P】は、横這いの状況です。

項目別では、売上額【△18P】が 11P やや低下しました。収益【△23P】、雇用人員【△27P】、資金繰り【△17P】は、横這いの状況です。

昨年同期（令和 7 年 7 月～9 月）との景況感比較は、今期構成比【△20P】で、前期構成比【△26P】と比べ、やや低下しました。

景況感については原材料費高騰や中東情勢の不安定化に伴う石油製品価格の上昇、光熱費等の固定費増加が収益を圧迫し、慢性的な人手不足の声も依然として聞かれます。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（％）－悪い（少ない）等の構成比（％）を計算した値が DI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

向上 (15 P 以上)	やや向上 (6 P～14 P)	変わらない (△ 5 P～5 P)	やや低下 (△ 6 P～△14 P)	低下 (△15 P 以下)
↑	↗	→	↘	↓

業種別 調査結果と事業者の声

＊ D I 値調査結果は裏面に記載

（１）製造業 景況感 【 △ 8 P <やや低下> ↘ 】 （前期比 △21 P）

前期と比べ、雇用人員【△28 P】が 8 P やや向上しましたが、売上額【5 P】、収益【△10 P】がそれぞれ 8 P、7 P やや低下しました。資金繰り【△7 P】は、横這いの状況です。次期は、すべての項目で横這いの見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・迅速な価格転嫁をしないと利益が悪化する。
- ・原材料費、資材費などの上昇が収益を下押しする要因になっている。
- ・中東情勢のサプライチェーンの停滞が少し解消し、注文や納品も再開しつつあるが、価格転嫁が進まない。

（２）建設業 景況感 【 △ 3 P <変わらない> → 】 （前期比 26 P）

前期と比べ売上額【△16 P】、収益【△16 P】は、それぞれ 16 P、19 P 向上し、資金繰り【△18 P】は、11 P やや向上しましたが、雇用人員【△51 P】は、17 P 低下しました。次期は、売上額、収益、資金繰りが、やや向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・原材料が高騰しており、その上景気動向の先行き見通しに不安定要素が多く不安を感じている。
- ・受注先は増加傾向にあるが、人手不足で現場に手配できる従業員がいらないため、機会損失が生じている。
- ・資材高騰も一段落し、受注状況も落ち着きを見せる。価格交渉は以前より容易となり、利益幅が見込める状況。

(3) 卸・小売業 景況感 【 $\Delta 40 P$ <低下> 】 (前期比 $\Delta 14 P$)

前期と比べ、雇用人員【 $\Delta 17 P$ 】は、12Pやや向上しましたが、売上額【 $\Delta 42 P$ 】は、25P大幅に低下しました。収益【 $\Delta 39 P$ 】、資金繰り【 $\Delta 23 P$ 】は横這いの状況です。

次期は、売上額、収益が大幅に向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・中東情勢の影響によるプラスチック製品の価格上昇と価格転嫁できていないことから利益は減少。
- ・食肉に関しては、中東情勢の混迷による原油価格や原材料価格の高騰、円安による海外からの仕入価格の上昇等の影響を大きく受けている。
- ・機械部品や資材の仕入れ値が上昇しており、今後上昇し続けた場合に対応して、価格転嫁できるかを心配。

(4) 不動産業 景況感 【 $23 P$ <向上> 】 (前期比 $\Delta 10 P$)

前期と比べ、収益【 $38 P$ 】は、18P向上し、資金繰り【 $15 P$ 】は、8Pやや向上しましたが、売上額【 $\Delta 15 P$ 】は12Pやや低下しました。雇用人員【 $\Delta 15 P$ 】は横這いの状況です。次期は、収益が大幅に低下し売上額、雇用人員はやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・物価上昇による消費者の不動産購入意欲の冷え込みもあり、人口減と少子化の状況下を考えると、今後も厳しい住宅事情が続くものと見込んでいます。
- ・中東情勢の影響による資材不足や原価の高騰は、リフォーム工事や新築に影響しており、仲介・売買ともに動きが鈍っている。

(5) サービス業 景況感 【 $\Delta 15 P$ <低下> 】 (前期比 $\Delta 3 P$)

前期と比べ、売上額【 $\Delta 17 P$ 】が、16P大幅に低下し、収益【 $\Delta 30 P$ 】は、10Pやや低下しました。雇用人員【 $\Delta 26 P$ 】、資金繰り【 $\Delta 24 P$ 】は、横這いの状況です。

次期は、すべての項目で横這いの見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・福祉業界は、昨今の最低賃金の上昇に対して国の報酬単価は下がる傾向にあり、運営不安が大きい。
- ・運送業は、ガソリン価格と高速料金の値上げの影響が大きい。
- ・全体的に材料費が上がり収益を圧迫。これ以上価格転嫁に踏み切れず、苦慮している。